

科目名	言語発達障害学Ⅱ			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	2年 前期
【授業の目的・ねらい】 言語発達障害の特性に応じた評価・指導・訓練のあり方、関わり方について理解できる。 発達段階や特性に合わせた指導について、基本的知識を身につける。								
【実務者経験】 言語聴覚士としてこども発達サポートセンター、野間こどもクリニックなどに勤務。発達障害児の言語聴覚療法に従事経験。								
【授業全体の内容の概要】 グループセラピーのフィードバックや指導計画の立案・修正・準備等を行い、言語発達障害児に対するアプローチ方法を理解する								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 言語発達障害児への、言語聴覚士としての関わり方・対応などの詳細を理解することができる								
回数	講義内容							準備物(教材)
1	子どもと関わる上で必要な礼節・身だしなみ・言葉遣い・心遣いを知る							
2	グループセラピーを行ううえで必要な準備・知識の整理を行う①							
3	グループセラピーを行ううえで必要な準備・知識の整理を行う②							
4	グループセラピー計画立案・修正①							
5	グループセラピー計画立案・修正②							
6	グループセラピー【1】フィードバック							
7	グループセラピー計画立案・修正③							
8	グループセラピー【2】フィードバック、グループセラピー計画立案・修正④							
9	グループセラピー【3】フィードバック							
10	グループセラピー計画立案・修正⑤							
11	グループセラピー【4】フィードバック、グループセラピー計画立案・修正⑥							
12	グループセラピー【5】フィードバック、グループセラピー計画立案・修正⑦							
13	グループセラピー【6】フィードバック							
14	グループセラピー計画立案・修正⑧							
15	グループセラピー計画立案・修正⑨							
定期筆記試験								
【使用教科書・教材・参考書】 言語発達障害学 第2版								
【準備学習・時間外学習】 言語発達治療学で学習した内容の復習								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。								